

(様式5)

8 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和6年度 南砺平高等学校アクションプラン - 1 -			
重点項目	学習活動		
重点課題	主体的に学習に取り組む態度の育成		
現 状	・家庭や寮での学習量や内容が不十分で、十分な態勢で授業や考査に臨めていない生徒がいる。 ・基礎学力が不足しているため、教科内容の習得に時間がかかる生徒がいる。 ・進路に対する目標が明確でなく、課題への取り組みが不十分な生徒がいる。 ・自分の学習状況を自己診断できず、自らの学習を調整できていない生徒がいる。		
達成目標	①学習時間の確保 ・生徒の1週間あたり、授業以外の学習時間	②自ら学習改善するための工夫をする態度の育成 ・自分の学習状況を自己判断し、学習改善に取り組んだかを3点満点で評価 (各学期末に取り組み状況で調査)	
	・各学年平均600分以上	・各学年2.5点以上(3点満点)	
方 策	・生徒が取り組みやすい課題内容や生徒個々に合わせた課題レベルを検討し、朝学習をはじめ授業以外の時間にも学習する習慣を身につけさせる。 ・詳細な学習・生活実態調査を実施し、生活指導を合わせたきめ細やかな面接指導、助言を行う。 ・進路調査、成績結果と実態調査結果を分析し、進路意識を高める面接により、意識付けを図る。	・学び方や学習計画の立て方等についてのモデルや事例を示し、学び方について丁寧に指導する。 ・振り返りを充実し、自身の学習状況を自覚できるようにする。 ・個々の「自ら学習を調整しようとする側面」を具体的に見て評価する。 ・評価の結果をフィードバックし、適宜アドバイスや支援を行う。	
達成度	第1学年 595分(現2年の1年次398分) 第2学年 477分(現3年の2年次514分) 第3学年 735分(前年度574分) 平均 605分(前年度495分)	1学期末調査結果 第1学年 1.8点 第2学年 1.9点 第3学年 2.1点 平均 1.96点	2学期末調査結果 第1学年 2.1点 第2学年 2.2点 第3学年 2.3点 平均 2.19点
具体的な取組状況	・学習・生活実態調査を通年で実施している。調査のコメント欄を通じて、学習の動機づけを行った。 ・各自の学習時間だけでなく取り組み方についても指導・助言を粘り強く行った。 ・3年は進路決定に向けて6月から各自の実態に合わせた個別指導を実施した。 ・3年は2学期期末考査以降、共通テストに向けた特別編成授業を行った。 ・共通テスト受験者は8限補習も行った。	・学習・生活実態調査を通年で実施しており、担任からの指導・助言を丁寧にやっている。 ・多様な生徒一人ひとりの個性や学習スタイルの理解に努め、個別の指導を行った。 ・考査前に個人面談を行い目標点を設定させた。 ・3年は進路と成績の関連性を詳しく説明し、自身の過去の成績と現状を比較させ、学習状況の改善を促した。	
評 価	1年:B 2年:C 3年:A		C
学校運営協議会の意見	・特に3年生が頑張ったのがうかがえる。 ・昨年よりも大幅に伸びている。学習への動機づけを行ったことなど、具体的な取組みが功を奏している。 ・時間だけではなく、「学ぶ態度」はどうだったのか。	・3点満点の自己評価だと目標達成は難しいだろう。また、自己評価だと個人によって評価の基準が違っているので、目標設定に用いるのは難しい部分がある。 ・自らの学習状況を客観的に振り返り改善していこうとする生徒を育てるのは難しいが、具体的な取組みを挙げて進めていることは評価できる。	
次年度に向けての課題等	・1年:単に「数学を2時間」ではなく、「数学の章末問題を3問解く」など、具体的な目標を設定することで、学習の進捗状況を把握しやすくする。 ・2年:短期的な目標だけでなく、長期的な目標を設定し、モチベーションの維持に努める。 ・3年:大学での学びや将来の職業と結びつけることで、学習の意義を理解させる。 ・定期的に生徒と面談を行い、生徒一人ひとりの個性や状況に合わせて、柔軟な指導を行う。	・現状に満足せず、改善していこうとする気持ちを持っているという見方もできる。 ・生徒がより客観的に自己評価できるように、「学習計画を立てた」「分からないところを先生に質問した」など、具体的な行動を例示することで、生徒が自分の行動を振り返りやすくする。 ・学習内容の理解度だけでなく、学習態度、学習習慣など、多角的な視点から自己評価できるようにする。例えば、「授業を集中して聴いていたか」「復習はどのくらいしたか」といった項目を追加することで、より深い自己評価を促す。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和6年度 南砺平高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	安全な学校生活と心身の健康について	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時に、交通ルールに対する安易な行動(歩きスマホ等)が時々見受けられる。 ・周囲には商店や高校生が利用できる施設等も少なく、スマホや携帯といった通信機器に依存し、トラブル等に巻き込まれやすい環境にある。 ・生徒数が少ないことにより、人間関係が濃密になりやすく、ささいなことから人間関係のトラブルやいじめにつながりやすい。 ・不安や緊張に弱い生徒、悩みを抱える生徒が増加傾向にある。 ・自主的な健康管理ができず、体調不良を訴える生徒が増えている。また、食に対する正しい知識が乏しく、偏食の傾向がある。 	
達成目標	①悩みを相談しやすい学校づくり ・全員面談の回数	②バランスの良い朝食をとる意識の向上 ・長期休業期間中の朝食内容について調査し、「バランスの良い朝食をとった」と回答する生徒の割合
	・年5回以上	・50%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に面談をする計画を立てる。 ・日頃から生徒に声がけをし、悩みを相談しやすい雰囲気づくりに努める。 ・何かあった場合の対応策について周知を図り、迅速に対応できる体制を整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HR等を利用して、バランスの良い食事とはどのようなものかを考えさせる。 ・生徒各自が、夏季休業期間中と冬季の朝食の記録をつけ、自己評価を行う。 ・保健だより、給食だより、厚生委員会の活動を通して、情報提供をする。 ・保健室での保健指導や、生徒寮での舎監による指導を行う。
達成度	<p>1学年6回、2学年5回、3学年5回</p> <p>全員面談以外にも悩みを抱えている生徒に対する声かけや相談等も日常的に行うことができた。</p>	<p>食のアンケート結果(7月と12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日朝食摂取 76.7% → 89.4% ・朝食のバランスを考えて食べる 58.2% → 54.3% ・3食の栄養バランスを考え食事をしている 57.8% → 66.0%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・考査前面談や科目登録の面接などに合わせて実施した。普段から生徒と教員との良好な人間関係が築かれており、面談を通して、生徒の悩みやトラブル等に迅速に対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士による食事に関する講演会を行った。 ・夏期休業期間中と12月に食に関するアンケートを実施し、自己評価をした。 ・厚生委員会が文化発表会や学校保健委員会で朝食の栄養と役割、間食について発表した。 ・保健だより、給食だよりを通して、食と健康に関する情報提供を行った。
評 価	A	B
学校運営協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすい環境であることはすばらしいこと。一方、生徒数が少ないことから、人間関係のトラブルも生じやすいと考える。 ・面談の回数を目標にするのもよいが、生徒側のアンケート回答などで目標を設定することは可能か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数値が上がっていることは評価できる。 ・家庭の問題が大きく、本人の努力では難しい場合もあり、注意が必要。 ・朝食だけではなく、睡眠の質、時間の充実を図ることなども重要。
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒には1年間通して、きめ細やかな対応をとることができた。深刻ないじめやトラブルもなく安心して学校生活を送ることができたと思う。次年度以降も継続していきたい。 ・人間関係に悩みを持つ生徒も多くいることから、教員だけでなく外部の専門家とも連携し、相談体制の充実を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食の重要性について、今後も食事バランスを意識できるようになる指導を続ける。 ・朝食をとる時間がない、食欲がわからない生徒がいるので、睡眠や食事時間など生活リズムの指導も必要である。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の高揚および生徒個々の希望進路に応じた学力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先が大学から就職まで多様で、学力差も大きく、十分な対応ができていない所もある。 ・進路に関する生徒と保護者との認識のずれ等の要因により、進路先決定までに時間がかかり過ぎている。 ・外部模試は、令和元年度より希望制とした。また、令和元年度から1・2年生に導入した「高校生のための学びの基礎診断」を基礎力診断テストから、1学期にスタディサポート、3学期に実力診断テストに変更し、生徒の基礎学力の判断指標とし、教科指導に生かしている。 ・検定試験の受験を推奨し、令和5年度から生徒の自主的な学習を勧めるため、全ての検定試験の受験を希望制とした。各年度内で必ず検定を1つ受験することを勧める。漢字検定、英語検定、数学検定、世界遺産検定、ビジネス系の検定受験を推奨する。主体的に学習に取り組むことで、基礎学力の充実を図ることを目標としている。 	
達成目標	①一人一人に対応した進路指導の充実 ・保護者同意の進路希望先決定率 ・3学年 90%以上(7月末) 進学希望者は第1受験希望校を決定する。就職希望者は入社希望企業業種を決定する。 ・2学年 80%以上(12月末) 進学希望者は進学希望校種・学部・学科・コース等を決定する。就職希望者は就職の意思決定をする。	②基礎学力の充実 ・高校入学から卒業までに、各種検定1種目以上取得した生徒の割合 ・2年生 60%(1年次の取得割合は20.8%) ・3年生 80%(2年次までの取得割合は60.0%)
	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、卒業生と語る、オープンキャンパスやインターンシップなどを通して、進路意識の向上を図る。 ・希望進路先に対する基礎学力の状況を家庭学習時間調査結果や外部模試・検定を通して把握する。 ・進路希望調査(4月・7月・12月)をもとにした進路に関する個人面談を実施し、保護者会を通して、生徒と保護者が共に納得できる進路希望先を決定できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定試験(漢字、数学、英語、ユネスコ世界遺産、秘書検定)を合わせて8回実施する予定である。 ・令和5年度より検定試験の受験を全て希望制とした。進学や就職における検定試験合格の価値を進路面談を通して生徒に認識させ、検定試験の受験と合格を目指す。検定の受験の際には、受験指導をそれぞれの教科が担当し、合格に向けた手立てを講じる。朝学習などを利用し、検定に向けた学習をクラス単位で促す。
達成度	・ 3学年 100% ・ 2学年 100%	・ 2年生 50.0% ・ 3年生 62.5%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・6月から「3年生8限補習」を実施した。3年生全員に指導担当教諭を割り振り、進路希望先合格に向けて、個別学習指導、小論文・作文指導を実施した。 ・進路ガイダンスを6月に実施し、大学～専門学校の学校説明会を行い、面接のポイントや小論文の書き方などより実践的な内容を実施した。 ・2学期には、明確化した進学・就職先に対応した教科指導、小論文・作文、面接指導を全教員が担当・指導し、2学期末考査まで継続した。 ・1学期末考査後～終業式までの6限帯の授業を進路研究の時間とし、各学年主導の進路を考える時間とした。1学期は1年生は文理選択、2年生は進学指導、3年生は進学・就職指導を行った。 ・進路指導の時間を確保できたことで、生徒との面談の時間や進路に関する活動が十分に行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①実用英語技能検定は英語科が主体となって合格に向けての指導を実施した。2級合格者が1名、準2級合格者が7名、になるなど成果をあげることができた。 ②日本漢字能力検定は希望者が受験し、2級合格者が1名、準2級合格者が7名、になるなど成果をあげることができた。 ③実用数学技能検定は希望者が受験し、準2級合格者3名であった。 ④世界遺産検定は、1・2年生の希望者が受験した
評 価	A	C
学校運営協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の熱心な指導がうかがえる。 ・インターンシップなどの機会を将来の進路に生かしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな検定の受験、合格目標が、学習のモチベーションを上げ、相乗効果につながっているのではないかと。
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多くが推薦入試で受験をしているが、共通テストや一般受験でも志望校へ合格できるような体制を整備する必要性が出てきた。 ・生徒の希望を反映できる進路指導について、再度考えていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標数値を達成することはできなかったが、英検・漢検の準2級以上の合格者が昨年度より増加した。英検準2級4名→7名、漢検準2級1名→7名。 ・各学年の担任の先生方も検定受験の利点について生徒には説明はしている。少しでも多くの生徒が取り組むための環境づくりを考えたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動	
重点課題	特別活動の充実および読書習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会中心に、生徒主体の学校づくりを目指している。生徒会行事ではそれが達成されているが、校則等の規律という面では教員に頼る部分もある。 ・放課後、部活動のない時間帯に学習せず、スマホをさわっている生徒が見受けられる。 ・小中高合同運動会、球技大会、文化発表会など、生徒が積極的に取り組んできた行事は多いが、コロナ禍で行事が中止もしくは縮小・制限され、モチベーションが低下気味である。 ・年間で一冊も本を読まない生徒が4割を超えており、生徒の読書離れが懸念されている。 ・図書館の蔵書冊数が他校に比べて少なく、十分とは言えない状況である。 	
達成目標	①学校行事や生徒会行事での満足度 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:あまり満足できなかった、1:満足できなかった)	②読書習慣の確立 ・生徒が良書に触れることを目的とする。年間読書の目標冊数を10冊とする。
	・すべての行事で、4以上の生徒が75%以上	・年間10冊以上の本を読む生徒が70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主性を大切にした運営、事前の準備を大切にする。 ・多くの生徒が準備に参加できるように計画を立てる。 ・リーダー研修会等を通して、リーダーとしての心構えや積極性を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で毎週朝読書の日を設け、生徒全員が読書に取り組める機会を増やす。 ・「図書室だより」の発行や「購入図書調査」を通して委員会活動を活性化し、読書への関心を高める。 ・図書室と学級文庫に生徒が関心を高めるの蔵書を増やす。 ・生徒が興味を持ち、手に取りやすいように、図書室内外の図書の配置を工夫する。 ・読書調査記録表に読んだ本の冊数を記入し、読書量を意識させる。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・評価が4以上の生徒の割合は次の通りで、目標を達成することができた。 小中高合同運動会79% 球技大会85% 学園祭97% 五箇山探究(茅刈り、桂湖等)90% 台湾修学旅行90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間10冊以上本を読んだ生徒は42%であった。 (※4月から12月までの期間における暫定冊数) アンケートの結果から見えてきたこと ・読書が嫌いな生徒12% 好き51% どちらでもない37% ・読書冊数0冊/人～200冊/人 ・0冊 10%、1～4冊 39%、5～9冊 10%、10冊以上 41%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー研修会等を通して、リーダーとしての心構えや積極性を育てた。 ・生徒の自主性を大切に、多くの生徒が準備に参加できるように計画を立てた。 ・五箇山探究では、地域に出ていく活動を増やすように心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は1学期朝読書を実施した。 ・図書室を生徒が学習や読書がしやすくなるように環境整備をした。特に貸出カウンターを整備した結果、昨年より多く本の貸し出しがなされた。(94冊貸出簿) ・7月には読みたい本のアンケートを実施し、生徒の関心をもとに選書を行った。図書室前に新着図書専用の本棚を設置し、本を借りやすいよう展示した。 ・出張図書として教室の前に何冊か本を置き、貸し出しができるようにした。
評 価	A	C
学校運営協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事などをしっかりと取り組み、満足度が高いことはよいことである。学校そのものの満足度ともいえる。 ・地域活動により、地域のために何かしたいという気持ちが高まることも期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなメディアの登場により、紙の本だけで測れない部分はある。活字に親しむという点では、新聞の切り抜きなども効果的ではないか。 ・地元図書館と連携して、読みたい本が読める環境は作れないか。
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も生徒が主体となり、準備を重視した行事を実施していきたい。また、五箇山を体感できる活動を継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の環境整備をした結果、図書室の書籍の貸し出し数は増えた。来年度はより生徒が興味・関心を持つ書籍を増やしたい。 ・市の図書館なども活用していきたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和6年度 南砺平高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他(地域・家庭との連携、生徒寮生活)		
重点課題	教育活動への理解を深める情報発信の強化	生徒寮における生活と学習の質の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・各種「たより」は定期的に発行されており、「学校だより」は7月、12月、3月に平・上平地域全戸に配布し、広報活動を行っている。また、本校のHPにも掲載している。 ・本校の様子を本校HPに適宜掲載しているが、内容に対する保護者の満足度を高めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒寮で生活する生徒が年々多様化し、そのためひとり一人の学習能力や生活能力の差が激しい。このことから、今年度も昨年度に引き続き、個人に合わせた目標を学期ごとに掲げて努力させたい。昨年度のこの取り組みは、寮生活で自分自身を振り返る良い機会となり、寮全体の良い刺激となった。そのため、今年度の2、3年生は昨年度以上の高い目標を設定し、寮生活の活性化をはかっていく必要がある。 	
達成目標	①本校のHPの内容の充実と更新回数	②寮生活の目標と学習時間の目標の達成率	
	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が寮生活の目標と学習時間の目標を学期ごとに掲げ、「達成できた・だいたいできた」と回答する生徒の割合(毎月のアンケート調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの目標達成率75%以上 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の教育活動に関わる内容のHPの記事の更新回数年間60回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校のHPに学校行事等の記事をその都度掲載し発信する。 ・各分掌、学年、部活動等の担当者が随時掲載・更新する。 ・生徒の活動の様子がわかる内容の記事を月5回以上掲載・更新する。 ・更新状況を保護者に安全メールで知らせる。 ・生徒、保護者にとって必要なデータを残すよう、古いものについては整理する。 ・各種「たより」の発行も従来通り行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に2、3年生は頑張れば達成できる範囲にハードルを上げ、現状の生活と学習の質を上げる目標を一人一人に設定させ、振り返りにより自信を持たせる。 ・それぞれが設定した目標の内容は他の寮生に開示しないが、毎月の目標の達成度を寮内に掲示し、互いに刺激し合うことで自分で立てた目標を常に意識させる。 ・職員には舎監時に寮生全員分の調査用紙を見てもらい、日頃の指導に役立ててもらおう。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の教育活動に関わる内容のHPの記事の更新回数：64回(3月10日時点) 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の達成率(4～7月調査:4回分の平均値) 生活目標94% 学習目標92% (昨年度 生活目標94% 学習目標93%) 2学期の達成率(9～12月調査:4回分の平均値) 生活目標96% 学習目標96% (昨年度 生活目標95% 学習目標99%) 	
具体的な取組状況	<p>今年度は総務図書部のHP担当者だけでなく、各分掌や学年、部活動顧問等が随時更新や掲載をした。そのため行事後などの掲載日時も早く、タイムリーな記事が多くみられるようになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期始めに、寮生一人ひとりが生活面と学習面における頑張りたい目標を設定し、毎月達成度の調査を実施した。 ・今年度も毎月の自己評価の達成率を生徒寮に掲示し、寮生同士の良い刺激材料とした。 ・寮生が記入した目標や自己評価は、職員への生徒指導の一助となるように、職員が閲覧できるようにした。 ・学年と男女別に達成率を毎月公表し、寮生活における自分の目標を確認する機会を設けた。 ・どの寮生も自分の取り組みについて冷静に評価し、達成感を感じたり、反省をする良い機会となった。 	
評 価	B	A	
学校運営協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・全国募集でより学校への関心が高まっている。今後も素敵な情報発信を期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が、学習、生活両面で具体的な目標を持って寮生活を送っていることはよいことである。 	
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・HPIに関心をもって閲覧して下さる保護者が多くなった。またHPIに対する要望も多くなってきた。それらに応えるようさらに内容を充実させたい。 《保護者からの要望》 ・部活動の成績を最新のものに更新してする。 ・年間、毎月の行事予定を早めに掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度からは全国から生徒が来る可能性が高く、さらなる意識の多様化が予想されるため、統一した目標より一人ひとりに合った目標を設定させ、それに向けて努力させる方が合っているように思われる。 ・今年度も、感染防止対策「手洗い・うがい」の実施を毎月調査し、1・2学期全体における「だいたいできている」以上の割合は99%だった。今年度はコロナとインフルエンザの両方が蔓延しているため、防止対策の呼びかけと共に、この調査も継続して意識を高めていった方がよいと思う。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)